

科目ナンバリング		G-AAA02 52402 LJ31									
授業科目名 <英訳>		農業生態論				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 伊谷 樹一			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アフリカの農業を、生態環境（気候、土壌、地形、植生など）、農耕体系（農耕技術、作物、生業複合、土地利用など）、文化（食、物質）などの多角的な視点から総合的に解説する。また、現代のアフリカ農村が直面している諸課題についてその原因を説明し、解決策にむけた取り組みを紹介する。</p>											
【到達目標】											
<p>現代アフリカにおける農業の実態を具体的な事例をもとに理解し、生態・社会・文化・歴史の各視点からその現状を総合的に把握できるようになる。また、農村の直面している土地争い、エネルギー不足、環境劣化などの実態を理解するとともに、課題間の相互関係を踏まえて解決策を考えることができるようになる。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第1～3回 アフリカ大陸の気候と地形  第4回 乾燥地域の生業  第5回 半乾燥地域の生業  第6回 湿潤地域の生業  第7回 生態環境と農耕体系（総論）  第8回 アフリカの食文化  第9回 アフリカの課題 1. 食料事情  第10回 アフリカ農業の課題 2. エネルギー事情  第11回 アフリカ農業の課題 3. 生態資源の利用と保全  第12回 農業の集約化  第13回 平準化機構とと環保全  第14回 環境を保全する試み  第15回 総括</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポート											
----- 農業生態論 (2)へ続く -----											

## 農業生態論 (2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

掛谷誠・伊谷樹一 『アフリカ地域研究と農村開発』 (京都大学学術出版会) ISBN:978-4-87698-989-8

松田素二 [編] 『アフリカ社会を学ぶ人のために』 (世界思想社) ISBN:978-4-7907-1616-7

日本アフリカ学会 [編] 『アフリカ学事典』 (昭和堂) ISBN:978-4-8122-1415-2

### [授業外学修 (予習・復習) 等]

予習・復習を必ず実施する。

### (その他 (オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52604 LJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ環境学 Environmental Studies in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 大山 修一			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>近年、アフリカで調査をしていると、さまざまな変化に目を奪われることが多くなりました。物流や外資系企業の活動などの経済の動き、自然資源の利用や生態系への影響、選挙や法律の改変など、その変化は多岐にわたります。この授業では、アフリカの現代的な諸相を深く理解し、フィールドワークの素養を習得することができることをめざし、講義や実習、文献講読を通じて、アフリカの自然、生態、文化、生業に関するフィールドワークの実際とそのフロンティアをみなさんと考えていきます。</p>											
【到達目標】											
<p>サハラ以南アフリカにおける自然や社会、文化に関する理解をふかめるとともに、基礎的なフィールドワークの技法を身につけることを目標とします。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>講義は以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．はじめに：授業の概要</li> <li>2．アフリカの自然 その1</li> <li>3．アフリカの自然 その2</li> <li>4．アフリカの急速な人口増加</li> <li>5．アフリカの土地制度</li> <li>6．アフリカのチーフと慣習地</li> <li>7．グローバリゼーションと貧困問題</li> <li>8．自給農業は貧困なのか。</li> <li>9．呪いはなぜ起きるのか。</li> <li>10．気候変動と砂漠化</li> <li>11．都市と農村の物質循環</li> <li>12．農耕民と牧畜民の武力衝突</li> <li>13．テロはなぜ起きるのか。</li> <li>14．地域研究と社会貢献</li> <li>15．まとめ</li> </ol> <p>授業内容は、受講者の人数や興味によって変化することもあります。フィールドワークにおける基本的な技法（データの取得、まとめ方）について、実習を取り入れることも予定しています。</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アフリカ環境学 (2)へ続く -----											

## アフリカ環境学 (2)

### [成績評価の方法・観点]

評価は、授業への理解（30%）と実習に対する期末レポート(70%)で評価します。

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

### [授業外学修（予習・復習）等]

各回のテーマと関連させて、フィールドワークにおける基本技法（データの取得、および分析方法）を学ぶ実習も予定しています。この実習では、野外で簡単な作業をしたり、あるいは室内でノートパソコンを使い、マイクロソフトのエクセルとフリーのソフトウェアを使います。実験室の化学実験も予定しています。時間外に作業をしていただくこともあります。

### （その他（オフィスアワー等））

平日（月曜から金曜日）までの午後をオフィスアワーとしていますが、学外出張などもあるので、空振り为了避免のため、事前にメール連絡してください。  
メールアドレスはoyama.shuichi.3r[ @ ]kyoto-u.ac.jp です。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82404 LJ31									
授業科目名 <英訳>		生態史論 Historical Ecology				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 安岡 宏和			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
人間と生態系との関係（史）について、中部アフリカ熱帯雨林における具体例をとりあげて講義したうえで、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題において、人間と生態系との関係（史）に関する研究が、どのような観点から重要であるかについて議論する。											
【到達目標】											
以下の2点が到達目標である。 （1）在来の生態学的知識や文化的実践、また広域の政治・経済のしくみが、どのように人間と生態系の関係をかたちづくってきたか、ポジティブなもの、ネガティブなものをふくめて、人間活動が地域の生態系にどのような影響をおよぼしてきたかを理解する。 （2）人間と生態系の関係（史）という観点が、生物多様性保全や持続的な地域開発にかかわる諸問題にとりくむうえで、どのように有用であるかを理解する。											
【授業計画と内容】											
1. イントロダクション 2-14. 講義、文献講読、ディスカッション											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
平常点（100%）											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
（関連URL）											
<a href="https://sites.google.com/view/casinkyoto">https://sites.google.com/view/casinkyoto</a> (中部アフリカ研究 in Kyoto)											
【授業外学修（予習・復習）等】											
授業中に紹介した文献を読むこと											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52405 LJ31									
授業科目名 <英訳>		地域生態論 Ecology for Area Studies				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 佐藤 宏樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
地域とは地理的な条件や歴史的な経緯によって特徴づけられる空間である。生態学とは生物が環境や他の生物と関わりながら生きている実体を理解する学問であるが、対象となる空間の地理や歴史を考慮しながら生物やヒトの生き様を理解する地域生態学は地域研究に有効な学問となる。本科目では研究科が調査対象とする地域を例に挙げながら、その地域を生態学的に理解するためのアプローチについて解説していく。											
【到達目標】											
自身が調査地に赴いた際に、その地域の自然環境や生物資源、社会の特性を生態学的に理解するために必要な理論と方法を習得すること。											
【授業計画と内容】											
以下の項目について、解説していく。下記の授業の回数は目安であり、授業の進捗状況や理解度によって変更する場合がある。											
[第1-3回] 自然環境と地域（アジア・アフリカとはどのような空間なのか、自然環境の地理と歴史から理解する）											
[第4-6回] 地域生態と人間活動（ヒトという生物の生態を理解し、どのように地域特有の生態環境で生きているのかを学ぶ）											
[第7-10回] 生態学と地域研究（生業生態、生態系サービス、持続的な開発目標などから生態学と地域研究の接続を考える）											
[第11-12回] 地域生態学の手法（地域生態学で用いるフィールドワークの手法について解説する）											
[第13-15回] 課題発表（地域生態学に関する課題を各受講生が発表し、その内容について討論する）											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
講義への積極的な参加と応答、および課題発表に基づいて評価する。											
【教科書】											
使用しない											
【参考書等】											
（参考書） 授業中に紹介する											
【授業外学修（予習・復習）等】											
講義中に指示する。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52504 LJ31									
授業科目名 <英訳>		生業とものづくり Livelihoods and Creativities in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 金子 守恵			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
現代のアフリカに暮らす人びとを理解するための中心的な対象のひとつは、彼ら・彼女たちが日々を生きていくための生業活動である。講義では、講師がこれまで調査研究をおこなってきたエチオピアでの生業活動（土器製作、農業、土産物製作）を対象に、フィールドワークという手法をもちい、ヒトと「もの」の関係に着目して彼らの生業活動にみいだされる特性を提示する。それをふまえたうえで、受講生とともに、アフリカに暮らす人びとが日々変化する諸環境への対応の仕方、ヒトと「もの」の関係に注目したフィールドワークの可能性、そして調査者が外部者としてフィールドに関わることの可能性について議論する。											
【到達目標】											
ヒトと「もの」の関係に注目して、現代アフリカに暮らす人びとによる生業活動へアプローチする手法を理解したうえで、日々変化する諸環境への彼ら・彼女たちの対応の仕方について受講生とともに議論、考察する力を身につけます。											
【授業計画と内容】											
第1回目（4/12）イントロダクション 第2回目（4/19）生業活動としてのものづくり1 つかう 第3回目（4/26）生業活動としてのものづくり2 つくる 第4回目（5/10）生業活動としてのものづくり3 まなぶ 第5回目（5/17）生業活動としてのものづくり4 売る 第6回目（5/24）ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性1（時間、考古） 第7回目（5/31）農耕活動におけるヒト-「もの」関係1 第8回目（6/7）農耕活動におけるヒト-「もの」関係2 第9回目（6/14）農耕活動におけるヒト-「もの」関係3 第10回目（6/21）農耕活動におけるヒト-「もの」関係4 第11回目（6/28）ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性2 第12回目（7/5）あらたな生業活動とヒト-「もの」関係1 第13回目（7/12）あらたな生業活動とヒト-「もの」関係2 第14回目（7/19）ヒト-「もの」関係とフィールドワークの可能性3 第15回目（7/26）フィードバック											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
レポートと授業への積極的な参加を評価します。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 生業とものづくり (2)へ続く -----											

生業とものつくり (2)

---

**[参考書等]**

(参考書)  
授業中に紹介する

**[授業外学修(予習・復習)等]**

授業前後に予習と復習が必要であり、講義中に適宜指示します。

**(その他(オフィスアワー等))**

事前にメール等にて連絡してください。個別に対応します。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52603 LB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ開発論 Development in Africa				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 高橋 基樹			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
<p>開発という言葉と現象はアフリカ諸国の政府部門、援助機関、国際機関に関わり観察されるだけでなく、今日のアフリカ社会の一般的な目標となりつつあり、人びとの日々の生活にも浸透しつつあるように思われる。アフリカで開発に関わる状況が全く存在しない場所を見ることは非常に難しくなっている。この意味で、今日のアフリカ社会を学ぼうとするとき、研究者は開発を無視できなくなっている。一方で、アフリカにおける開発は、主体、かかわる人びとへの含意、そして結果によって、多様で複雑な側面を持つことに注意を配らなければならない。この授業では上述の背景と意義を踏まえて、アフリカにおける開発の基礎的理解を得ることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>授業は出席者が次の課題を達成することを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.近代化の開始以来の開発に関わる多様な思想に関する基礎的理解を得ること</li> <li>2.アフリカ開発の主体、利害関係者、そして、彼ら・彼女らの相互関係についての基礎的な理解を得ること</li> <li>3.アフリカにおける開発とその変遷に関する基礎的な理解を得ること</li> <li>4.主要な開発指標を知り、これらをアフリカ諸国の社会経済開発状況を分析するために適用するための方法についての基礎的な理解を得ること</li> <li>5. 開発と出席者が調査対象とするフィールドや国との関係を見るための視座を構築すること</li> </ol>											
【授業計画と内容】											
<p>授業の前半（第1回目から第7回目前後）は、講義者が上述の5つの目標に関わる基礎的な事柄について授業を行う。授業の後半（第8回目前後から第15回目まで）では出席する学生は、前半の講義の内容をよく踏まえながら、各自の研究テーマ、及び開発と各自のフィールドあるいは対象国との関係についてプレゼンテーションを行う。国際協力機構に所属する本研究科客員准教授による1回分の講義を予定している。</p>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
<p>評価の50パーセントは学生の出席、議論への参加と貢献による。          評価の50パーセントは学生の発表による。</p>											
----- アフリカ開発論(2)へ続く -----											

## アフリカ開発論(2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)

授業中に紹介する

出席する学生は、その発表に関わる参考文献について、授業担当教員とよく相談すること

### [授業外学修(予習・復習)等]

学生は発表を準備するにあたっては、担当教員とよく相談すること。また、できる限りすべての授業に出席し、内容をよく理解し、それを発表に反映させること

### (その他(オフィスアワー等))

継続的で体系的な学習こそが、研究能力を高めます。できる限りすべての授業に出席するようにしてください。

オフィスアワーは特に設定しません。担当教員との面談を希望する場合は、メールで事前にアポイントメントをとってください。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52403 LJ31									
授業科目名 <英訳>		野生動物保全論 Wildlife Conservation				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授 山越 言			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金4	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
野生生物の保全は、世界各地のさまざまな生態系がもつ生物多様性を維持するための地球規模の問題群を構成する。いっぽう、これらの動物と接して暮らす人々にとっては、固有の歴史と動物観に基づいた、地域特有な問題群の一部となっている。野生動物保全をグローバルとローカルが交差する現代的問題のひとつとして捉え直し、関連する基礎的な概念について、読解・討論を通じて理解する。											
【到達目標】											
授業で取り上げるキーワードについて基礎知識を身につけ、それを用いて討論し、各自のフィールドワークの現場で生かすことができる新たな問題意識を獲得する。											
【授業計画と内容】											
第1回目の授業時に日程・内容に関して受講者と相談ののちに決定する。下記は暫定的なモデル案。											
第1週 授業方針についての説明。											
第2-7週 自然保護の多様なアプローチを具体例を用いて紹介する。 主要な論点：「誰が」「どのような自然を」「どのような手段で」「何のために」護るのか、「保全と保存」論争、実用的価値と超越的価値、人為的介入の是非、保護区と植民地主義、											
第8-10週 自然保護に関して行った議論を、地域研究における隣接分野に応用し、理解を深める。 主要な論点：参加型開発論、人道的介入、市場と新自由主義、全体主義と自然保護											
第11-15週参加者の関心に応じてキーワードを選び、特定の問題群について議論を行う。 キーワード例：生物多様性、環境持続性、外来種問題、レジリアンス、エコロジー思想、「木は法廷に立てるか」論争、「動物の権利」論争、公民権運動と自然保護思想、動物愛護と共感、アルピニズム・探検の思想、「自然美」概念、風景画の誕生と変遷、ネイチャーライティングと交感、宗教と環境保全											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
質問、意見等による講義への主体的参加、討論における積極性を評価する。											
----- 野生動物保全論 (2)へ続く -----											

## 野生動物保全論 (2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### [授業外学修(予習・復習)等]

討論のテーマについての予習・復習を求める。  
討論の内容次第で、指示した文献について適宜事前読解を求めることがある。

### (その他(オフィスアワー等))

講義時に必要に応じ指示する。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52605 LJ31									
授業科目名 <英訳>		水・衛生論 Water, Sanitation and Hygiene				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 准教授 原田 英典			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	金5	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>水は生きるために必須であり，排泄は生活にとまなう必然である。水（Water），トイレと排泄物の処分（Sanitation），および衛生行動（Hygiene）は合わせて水・衛生あるいはWASHと言われるが，その確保はサハラ以南アフリカにおける重要な課題の一つである。本授業では，廃棄物を含めつつ，水・衛生に関するその現況，健康への影響，物質循環と環境への影響，そして人・環境・社会との相互作用について学び，サハラ以南アフリカにおける水・衛生のあり方を考察する。合わせて水・衛生にかかる理化学および微生物データ取得のためのフィールド調査について学ぶ。</p>											
【到達目標】											
<p>水・衛生について，健康との関係を理解する。  水・衛生について，物質循環および環境との関係を理解する。  人・環境・社会との相互作用について理解する。  水・衛生の量・質のデータの取得方法とその意味を理解する。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>第01回：水・衛生の概要1  第02回：水・衛生の概要2  第03回：水・衛生と健康1  第04回：水・衛生と健康2  第05回：水・衛生と物質循環1  第06回：水・衛生と物質循環2  第07回：水・衛生と社会関係1  第08回：水・衛生と社会関係2  第09回：水・衛生を評価する1  第10回：水・衛生を評価する2  第11回：水・衛生を評価する3  第12回：アフリカ諸地域の水・衛生1  第13回：アフリカ諸地域の水・衛生2  第14回：アフリカ諸地域の水・衛生3  第15回：フィードバック</p> <p>授業内容は受講人数や構成で一部変化する可能性がある。第9回から第11回の授業には一部に水・衛生の量・質の測定実習とそのデータ解析を，第12回から第14回は受講者による発表を含む。</p>											
【履修要件】											
<p>特になし。受講者のバックグラウンドの文理は問わない。</p>											
----- 水・衛生論(2)へ続く -----											

水・衛生論(2)

**[成績評価の方法・観点]**

授業への参加・貢献（50％）および発表（50％）に基づく。

**[教科書]**

使用しない

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学修（予習・復習）等]**

授業後にその内容について自主的な学習で理解を深めること。発表に向けて授業内容を踏まえて準備をすること。学習のための資料は適宜紹介する。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52807 LJ31									
授業科目名 <英訳>		熱帯病学 Tropical Diseases				担当者所属・ 職名・氏名		関西医科大学 教授 西山 利正			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	火2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
アジア・アフリカ研究科ではアジア・アフリカ地域でのフィールドワークを行う研究者が多い、ところがこれらの地域は我が国に見られない種々の感染症を中心とした疾病が見られる。これらの疾病に対する知識を深め、健康に研究を遂行するための諸知識を習得する。											
【到達目標】											
学生の調査地における風土病に関する知識を身につけ、フィールド調査時における自己の健康管理ができ、熱帯地域における感染症の予防や罹患した時の治療の説明ができるようになる。											
【授業計画と内容】											
第1回：熱帯病学総論 第2回：カ媒介性疾患1（マラリア） 第3回：カ媒介性疾患2（デング熱、黄熱、チクングニア、西ナイル熱など） 第4回：カ媒介性疾患3（バンクロフト系状虫症、マレー系状虫症など） 第5回：ダニ媒介性疾患（恙虫病、紅斑熱、ダニ脳炎、クリミア・コンゴ熱、ライム病など） 第6回：ハエ媒介性疾患（リーシュマニア症、アフリカ睡眠病、回旋系状虫症、ロア系状虫症、人食いバエなど） 第7回：経皮感染症（住血吸虫症、鉤虫症、糞線虫症、レプトスピラ症など） 第8回：経口感染性ウイルス性疾患（A・E型肝炎、ノロ感染症、ロタ感染症、急性灰白髄炎など） 第9回：経口感染性細菌性疾患（病原性大腸菌群感染症、細菌性赤痢、腸チフス、サルモネラ食中毒、コレラ、カンピロバクタ感染症など） 第10回：経口感染性寄生虫疾患I（アメーバ赤痢感染症、トキソプラズマ症、ランブル鞭毛虫症、回虫症など） 第11回：経口感染性寄生虫疾患II（鉤虫症、鞭虫症、肝吸虫症、肥大吸虫症、肝蛭症、異形吸虫症、肺吸虫症） 第12回：ほ乳類咬傷による感染症・性感染症（狂犬病、破傷風、Bウイルス感染症、パスツレラ感染症、HIV感染症、梅毒、淋病、クラミジア感染症など） 第13回：マラリア・デング熱簡易診断キットの使い方（実習を含む） 第14回：航空機中で引き起こされやすい疾患と予防、旅行保険の上手な入り方 第15回：トラベルワクチンの選択と接種プログラムの作り方											
【履修要件】											
高等学校で生物を履修していることが望ましいが、必須ではない。											
【成績評価の方法・観点】											
レポートの提出により評価を行う。レポートのテーマはまず受講生の調査地を必ず記載し、その地域で流行している疾患を記載し、その予防対策、感染時の対応を記載する。											
----- 熱帯病学(2)へ続く -----											

## 熱帯病学(2)

### [教科書]

使用しない

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<http://www.who.int/ith/en/>(WHO International Travel and Health)  
<http://wwwnc.cdc.gov/travel/>(CDC Travel Health)  
[http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02\\_tokou\\_yobou.html](http://www.forth.go.jp/tourist/useful/02_tokou_yobou.html)(厚労省検疫所ホームページ)  
<http://www.anzen.mofa.go.jp/>(外務省海外安全情報ホームページ)  
<http://www.travelmed.gr.jp/>(日本渡航医学会トラベルクリニックリストホームページ)

### [授業外学修(予習・復習)等]

講義の後、関連項目をWHOのInternational Travel and Health や米国CDCのYellow Book等の該当部分をインターネットで検索し復習すること。

### (その他(オフィスアワー等))

オフィスアワー 金曜日12時～13時

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52808 LJ31									
授業科目名 <英訳>		実践的開発協力論 Practical Development Cooperation				担当者所属・ 職名・氏名		アフリカ理解プロジェクト 白鳥 清志			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>開発とは？開発は役に立つの？開発は何のために？という疑問を持つ人にヒントを提供する講義です。</p> <p>アフリカの農業・農村開発分野における技術協力の事例から、開発援助事業が本来目指していることと現場で起こる様々な事象を題材にする。開発援助の歴史と事業の概要を解説した後、開発とは何か、最終受益者・現地行政官・民間業者・開発ワーカーなど関係者それぞれのリアリティ、開発ワーカーの考え方、行動、役割、求められる能力などを議論する。</p>											
【到達目標】											
開発と援助事業をクリティカルに考察できるようになる。											
【授業計画と内容】											
<p>以下の課題について次のテーマをカバーします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1．はじめに</li> <li>2．開発の目的</li> <li>3．開発の歴史</li> <li>4．開発の制度・仕組み</li> <li>5．開発の事例：モザンビーク 1</li> <li>6．開発の事例：モザンビーク 2</li> <li>7．開発の事例：タンザニア 1</li> <li>8．開発の事例：タンザニア 2</li> <li>9．開発の事例：エチオピア 1</li> <li>10．開発の事例：エチオピア 2</li> <li>11．開発へのかかわり方</li> <li>12．開発にかかわる人々</li> <li>13．開発の計画と現実</li> <li>14．開発現場の不確実性</li> <li>15．開発ワーカーに求められる能力と態度</li> </ol>											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
授業への出席と、議論への参加で判断します。											
----- 実践的開発協力論(2)へ続く -----											

## 実践的開発協力論(2)

### [教科書]

授業中に指示する

### [参考書等]

(参考書)

Robert Chambers 『参加型開発と国際協力』(明石出版) ISBN:978-4750313078 (開発に関わる我々が変わることを議論)

Robert Chambers 『開発の思想と行動』(明石書店) ISBN:978-4-7503-2495-1 (「参加型開発と国際協力」の続編で、開発の携わる者の責任と義務について議論)

JIRCAS 『ファームング・システム研究:理論と実践』(JIRCAS) ISBN:1341-3899 (日本におけるファームングシステムの詳細な解説と議論)

服部正也 『援助するものされるもの』(中央公論新社) ISBN:4120031047 (開発の携わる者の態度と考え方)

Paul Polack 『世界一大きな問題のシンプルな解き方 私が貧困解決の現場で学んだこと』(英治出版) ISBN:978-4862761064 (開発をビジネスマインドで考える)

和田信明・中田豊一 『途上国の人々との話し方』(みずのわ出版) ISBN:B00X3MR8AM (開発現場におけるコミュニケーションの方法)

Alem, D. et al. 『Farmer Research group: Institutionalizing Participatory Research in Ethiopia』(Practical Action Publishing) ISBN:978-1853399008 (Compiled experiences of Participatory Research in Ethiopia)

大熊孝 『技術にも自治がある』(農山漁村文化協会) ISBN:978-4540031076 (近代技術とコミュニティー)

佐藤仁 『野蛮から生存の開発論:越境する援助のデザイン』(ミネルヴァ書房) ISBN:978-4623076772 (特に日本の開発と開発技術を歴史的見地から検討)

関根久雄 『実践と感情:開発人類学の新展開』(春風社) ISBN:978-4861104695 (開発現場に関わる者たちの感情とその実践への影響などについて。)

(関連URL)

[https://sites.google.com/site/ethiorice/\(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center\)](https://sites.google.com/site/ethiorice/(Ethiopia Functional Enhancement of the National Rice Research and Training Center))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/\(Ethiopia Farmer Research group Project II\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/5065025E0/(Ethiopia Farmer Research group Project II))

[http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/\(Ethiopia Farmer Research group Project\)](http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/(Ethiopia Farmer Research group Project))

[http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech\\_ga/after/pdf/2004/hyouka\\_nougyo2\\_02.pdf\(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project\)](http://www.jica.go.jp/activities/evaluation/tech_ga/after/pdf/2004/hyouka_nougyo2_02.pdf(Tanzania Kilimanjaro Agricultural Training Centre Project))

[https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc\(FRG Approach - Together we can make it\)](https://www.youtube.com/watch?v=f4L9X39fhFc(FRG Approach - Together we can make it))

[https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html\(Prosavanna in Mozambique\)](https://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html(Prosavanna in Mozambique))

### [授業外学修(予習・復習)等]

下記および他の開発援助事業資料を見て、質問等をリストアップしておく。

- エチオピア国立イネ研究研修センター強化プロジェクト

<https://sites.google.com/site/ethiorice/>

- エチオピア農民研究グループを通じた適正技術開発普及プロジェクト

実践的開発協力論(3)へ続く

### 実践的開発協力論(3)

<http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/001/>

- タンザニア農業技術者訓練センタープロジェクト

<http://goo.gl/kpqxcE>

・ 外務省プロサバナ

<http://www.jica.go.jp/project/mozambique/001/activities/>

・ JVCプロサバナ事業に関する取組み

<http://www.ngo-jvc.net/jp/projects/advocacy/prosavana-jbm.html>

#### (その他(オフィスアワー等))

現場での研究調査などを通じたみなさんの開発や援助に対する知識や経験をもとに、積極的な議論への参加を期待します。

どんなことでも問い合わせてください。

[kiyoshi.shiratori@africa-rikai.net](mailto:kiyoshi.shiratori@africa-rikai.net)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82155 LB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ政治論 African Politics				担当者所属・ 職名・氏名		龍谷大学法学部 教授 落合 雄彦			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	木2	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
<p>アフリカには現在、54の国家がある（西サハラを除く）。そうしたアフリカ諸国の政治をめぐる状況や制度は実に多様だが、その一方で共通性もかなりの程度みられる。本授業では、そうした多様ではあるが一定程度の共通性を備えたアフリカ諸国をひとつの圏域（スフィア）として捉え、その政治的動態を多面的に考察する。具体的には、アフリカ政治学のスタンダードな英文入門書である Thomson, Alex (2016) <i>An Introduction to African Politics</i> (forth edition, London and New: Routledge) をテキストとして用い、アフリカ政治を分析あるいは理解するために必要となる基本的な分析概念・枠組みを学んでいく。</p>											
【到達目標】											
アフリカ政治を分析するための基本的な分析概念・枠組みを理解する。											
【授業計画と内容】											
<p>授業は学生による報告とその後のディスカッションを中心に進める。学生の報告については、受講者の人数などにもよるが、1回の授業で2名程度に報告してもらう予定である。 具体的な授業スケジュールとテーマは以下のとおり。</p> <p>01：オリエンテーション（自己紹介、発表順決めなど）  02：歴史  03：イデオロギー  04：エスニシティと宗教  05：社会階級  06：正統性  07：強制  08：主権I  09：主権II  10：権威  11：デモクラシー  12：安全保障  13：地域主義  14：域内国際政治  15：まとめ</p>											
【履修要件】											
特になし											
----- アフリカ政治論(2)へ続く -----											

## アフリカ政治論(2)

### [成績評価の方法・観点]

口頭発表ならびにディスカッションの内容を総合的に評価する。

### [教科書]

Thomson, Alex 『An Introduction to African Politics』 (Routledge) ISBN:978-1138782846  
原則、教員がテキスト(コピーあるいはPDF)を配布する。

### [参考書等]

(参考書)  
授業中に紹介する

### (関連URL)

<http://hare.law.ryukoku.ac.jp/~ochiai/>(落合雄彦研究室)

### [授業外学修(予習・復習)等]

事前に指示されたテキストを授業前に各自読んでくること。

### (その他(オフィスアワー等))

教員は非常勤講師であるため、木曜日午前しか京都大学キャンパスにはいない。授業に関する質問などがある場合には以下のアドレスにメールで問い合わせること。

[ochiai@law.ryukoku.ac.jp](mailto:ochiai@law.ryukoku.ac.jp)

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 82809 LJ31									
授業科目名 <英訳>		牧畜文化論 Culture and Society of Nomadic Peoples				担当者所属・ 職名・氏名		徳島大学大学院社会産業理工学研究科 内藤 直樹 准教授			
配当 学年	1-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 後期集中	曜時限	集中講義	授業 形態	講義	使用 言語	日本語
【授業の概要・目的】											
この授業では、講師が収集してきた学際的な研究資料を用いて、とくに現代のアフリカ牧畜社会における諸アクターの寄せ集まりに注目しながら、人間と非人間による場所の構成について議論する年度ごとにこの主題に関係するテーマを選び、授業の参加者と経験的・理論的な議論を行う。2020年度は、現代アフリカの牧畜民を対象にした講師のフィールド調査およびドメスティケーション、空間と場所、人新世についての関連文献に基づき、場所の生態学について考察する。											
【到達目標】											
この授業では、講師が選定した牧畜社会における場所や人間/非人間の寄せ集まりに関する複数の領域について、民族誌的な資料を分析することを通じて、上記の関心についての議論を深める。											
【授業計画と内容】											
この授業では、以下のようなトピックについて、1トピックあたり2～3回の授業を行う予定である。トピックについては、受講生の関心を考慮して適宜調整する。授業は主として英語で行う。ただし、受講生がすべて日本語話者である場合は日本語を用いる。											
1. 牧畜の起源と進化 2-3. ドメスティケーションについて 4. アフリカ牧畜社会の特徴 : 年齢体系と複婚制 5. アフリカ牧畜社会の特徴 : コミュニケーションとしてのねだり 6-7. 東アフリカ牧畜社会における開発と定住化 8-9. 東アフリカ牧畜社会における市場経済・国家・メディア 10-11. 東アフリカ牧畜社会における紛争・難民・平和 12-13. 場所と空間の人類学 14-15. アフリカ牧畜社会における人間 - 非人間の寄せ集まり : 場所の生態学にむけて											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点】											
成績評価は、主としてレポートと授業中の議論に基づいて行う。議論への積極的な参加を重視する。											
【教科書】											
授業中にプリントを配布する。											
【参考書等】											
(参考書) アナ・チン 『マツタケ：不確定な時代を生きる術』 (みすず書房) ISBN:978-4622088318 (Tsing, Anna. 2017. The Mushroom at the End of the World: On the Possibility of Life in Capitalist Ruins. Princeton: 牧畜文化論(2)へ続く											

## 牧畜文化論(2)

Princeton University Press.)

その他の参考文献は授業中に紹介する。

### [授業外学修（予習・復習）等]

受講者には2つのレポートの提出を求める（1つは初回の授業，もう1つは学期の途中で課題を提示する）。レポートの詳細については授業中に解説する。

### （その他（オフィスアワー等））

質問はnaito.naokiアットマークtokushima-u.ac.jpまでお送りください。随時受け付けます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。

科目ナンバリング		G-AAA02 52851 SB31											
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習 I Research Seminar on African Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				アフリカ地域研究専攻全教員	
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語		
【授業の概要・目的】													
アフリカ地域研究にかかわる基礎的な問題とそれに対するアプローチの方法についての演習をおこなう。													
【到達目標】													
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。													
【授業計画と内容】													
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。													
【履修要件】													
博士予備論文審査にまだ合格していない者。													
【成績評価の方法・観点】													
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。													
【教科書】													
使用しない													
【参考書等】													
(参考書) 授業中に紹介する													
【授業外学修(予習・復習)等】													
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。													
(その他(オフィスアワー等))													
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。													

科目ナンバリング		G-AAA02 52852 SB31										
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習ⅠⅡ Research Seminar on African Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				アフリカ地域研究専攻全教員
配当 学年	1,2回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水3	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】												
アフリカ地域研究にかかわる具体的な事例をとりあげ、研究課題の構築とそのアプローチの方法についての演習をおこなう。また、博士予備論文のための研究に関する広い立場からの評価や指導をおこなう。												
【到達目標】												
アフリカ地域研究の特質を理解し、みずからの研究課題を設定する能力を身につける。												
【授業計画と内容】												
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。												
【履修要件】												
博士予備論文審査にまだ合格していない者。												
【成績評価の方法・観点】												
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学修(予習・復習)等】												
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA02 72853 SB31										
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習ⅠⅠⅠ Research Seminar on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				アフリカ地域研究専攻全教員
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 前期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語	
<b>[授業の概要・目的]</b>												
アフリカ地域研究にかかわる総合的な問題把握と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文作成のために、多角的な視点からの評価や指導をおこなう。												
<b>[到達目標]</b>												
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を統合的に整理して提示することができる。												
<b>[授業計画と内容]</b>												
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。												
<b>[履修要件]</b>												
博士予備論文の審査に合格した者。												
<b>[成績評価の方法・観点]</b>												
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。												
<b>[教科書]</b>												
使用しない												
<b>[参考書等]</b>												
(参考書) 授業中に紹介する												
<b>[授業外学修(予習・復習)等]</b>												
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。												
<b>(その他(オフィスアワー等))</b>												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA02 72854 SB31										
授業科目名 <英訳>		アフリカ地域研究演習IV Research Seminar on African Area Studies IV				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 教授				アフリカ地域研究専攻全教員
配当 学年	3-5回生	単位数	3	開講年度・ 開講期	2022・ 後期	曜時限	水5	授業 形態	演習	使用 言語	日本語及び英語	
【授業の概要・目的】												
アフリカ地域研究に関する先端的な問題と研究方法についての演習をおこなう。また、博士論文についての相互討論を深め、創造的で自立的な研究に向けての評価や指導をおこなう。												
【到達目標】												
アフリカ地域研究における研究課題を設定し、その成果を統合的に整理して提示することができる。												
【授業計画と内容】												
受講生が順番に、各自の研究の構想・進捗状況・成果などについて発表する。発表の内容について、参加者全員で議論を行うことにより、アフリカ地域への理解を深める。第1回目の演習時に、報告順を決定する。												
【履修要件】												
博士予備論文の審査に合格した者。												
【成績評価の方法・観点】												
個別研究報告の内容、質疑応答・討論への参加の積極性など。												
【教科書】												
使用しない												
【参考書等】												
(参考書) 授業中に紹介する												
【授業外学修(予習・復習)等】												
毎回の発表内容は事前に通知されるので、それに関して下調べしておく。受講後は、講義内での議論を踏まえて、個別の討論および文献の渉猟を通じて理解を深める。												
(その他(オフィスアワー等))												
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。												

科目ナンバリング		G-AAA02 62801 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士予備論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、フィールドワークの視点と方法を練り上げるための演習。											
【到達目標】											
博士予備論文に関する基本的事項を理解する。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士予備論文の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査にまだ合格していない者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72802 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
博士論文の基礎となる個別課題に関する学生の研究内容について討議し、学際化と研究内容の深化を図るための演習。											
[到達目標]											
博士論文に関する基本的事項を理解する。											
[授業計画と内容]											
指導教員の3名が、学生の博士論文準備の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
[履修要件]											
博士予備論文審査に合格した者。											
[成績評価の方法・観点]											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
(参考書) 授業中に紹介する											
[授業外学修(予習・復習)等]											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72803 GB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ論課題研究 Guided Research on African Area Studies III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 指導教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	ゼミナール	使用 言語	日本語及び英語
【授業の概要・目的】											
博士論文の作成に向けて、そこで提起された個別課題に関する学生の研究内容について討議し、それをさらに総合化・深化させるための演習。											
【到達目標】											
博士論文に関する事項の理解を総合化・深化させる。											
【授業計画と内容】											
指導教員の3名が、学生の博士論文作成の進捗状況に合わせて、随時、個別演習をおこなう。											
【履修要件】											
博士予備論文審査に合格した者。											
【成績評価の方法・観点】											
課題への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
【参考書等】											
(参考書) 授業中に紹介する											
【授業外学修(予習・復習)等】											
自らの研究テーマに沿った資料の収集, 分析。											
(その他(オフィスアワー等))											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 52804 FJ31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar I				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	1,2回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
生態・社会・文化に根ざした地域の固有性を理解するとともに、地域が直面する現代的諸問題を研究課題として発見するためのフィールドワークの手法を習得する。											
<b>[到達目標]</b>											
フィールドワークに関する基本的事項を理解する。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
<b>[履修要件]</b>											
1年次に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 62805 FB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar II				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	2-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
<b>[授業の概要・目的]</b>											
地域が直面する現代的諸問題を研究課題としてフィールドワークをおこなう手法を習得する。											
<b>[到達目標]</b>											
自らの研究テーマを発展させるための応用的なフィールドワーク手法を身につける。											
<b>[授業計画と内容]</b>											
学生は教員とともに臨地調査の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地調査を行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
<b>[履修要件]</b>											
2年次以降で博士予備論文提出前に臨地教育を受けた者。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
<b>[成績評価の方法・観点]</b>											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
<b>[教科書]</b>											
授業中に指示する											
<b>[参考書等]</b>											
（参考書） 授業中に紹介する											
<b>[授業外学修（予習・復習）等]</b>											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											

科目ナンバリング		G-AAA02 72806 FB31									
授業科目名 <英訳>		アフリカ臨地演習 African Area Studies On-site Seminar III				担当者所属・ 職名・氏名		アジア・アフリカ地域研究研究科 研究科教員			
配当 学年	3-5回生	単位数	2	開講年度・ 開講期	2022・ 通年不定	曜時限	その他	授業 形態	講義と実習	使用 言語	日本語及び英語
[授業の概要・目的]											
[授業の概要・目的] フィールドワークの過程で発見された具体的な研究課題について、国際機関やNGO、研究機関等において研究発表や討論をおこなうとともに、必要に応じて研究課題に即した実践活動をおこなう。											
[到達目標]											
フィールドワークに関する事項の理解を総合化・深化させる。											
[授業計画と内容]											
学生は教員とともに研究発表や実践活動の計画を立て（授業回数4回分）、その後教員の指導を受けながら臨地でそれを行ない（授業回数10回分）、帰国後に指導教員の指導を受けながら報告書を作成する（授業回数1回分）。											
[履修要件]											
博士予備論文提出後に臨地教育を受けた者（インターンシップを含む）。ただし、博士予備論文提出後、その Semester 内に臨地教育を受けた者は臨地演習 の単位とする。この科目の単位付与方法については、下記のサイトを確認のこと。 <a href="https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf">https://www.asafas.kyoto-u.ac.jp/edu/Overseas/docs/rinchienshu-1-2-3.pdf</a>											
[成績評価の方法・観点]											
臨地調査への積極的な取り組みとその達成度を評価する。											
[教科書]											
授業中に指示する											
[参考書等]											
（参考書） 授業中に紹介する											
[授業外学修（予習・復習）等]											
自らのフィールドに関連する資料の収集，分析，応用が求められる。											
（その他（オフィスアワー等））											
オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。											